

学年	教科名	科目名	単位数	対象コース
高2	社会科	倫理	2	特進文系
教科書・副教材		教科書：清水書院 『高等学校 新倫理』 副教材：清水書院 『教科書準拠 ワークノート』 山川出版社『倫理用語集』		

科目の目標			
「倫理」は、人間としてよりよく生きるとは何かを考察することを通して、自己と他者、社会との関係を深く見つめ直す科目である。学習指導要領では、思想・哲学・宗教に関する基本的な知識を学び、多様な価値観や人生観について考える力を養うことが示されている。本授業では、知識の習得だけでなく、思索を通じて問いを立て、自らの立場や価値観を言語化する力を育てることを重視する。特に、現代のグローバル化・多文化共生社会において求められる「世界市民（シティズンシップ）」としての感性や倫理的判断力を養うために、多様な立場への共感力や、自らの生き方を社会と結びつけて考える視点を育成する。また、用語集や参考資料を活用し、自ら調べ、知の背景や文脈を探究する姿勢を育てることで、単なる暗記にとどまらない深い学びへと導く。倫理の学びを通して、生徒が自らの内面を深めながら、持続可能で公正な社会の構築に向けて行動する力を身につけることを目標とする。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	倫理に関する基本的な思想・人物・用語・歴史的背景などを正確に理解し、それらを適切な文脈で説明できるかを評価する。授業や演習、用語集を活用した自主的な調べ学習を通して、知識の定着と活用の両面を重視する。	哲学的・倫理的な問いに対して、多様な視点から考察し、自らの考えを形成し、他者にわかりやすく伝える力を評価する。資料の読解、対話、論述活動などにおいて、論理性と感性のバランスをもった表現ができていくかを重視する。	用語集や資料を用いて自ら調べ、考え、他者と学び合おうとする姿勢を評価する。授業内外での問い直しや、学びの振り返り、時事や現代社会との接点に関心を持って学習を継続できているかを重視する。
評価の方法	定期テスト、小テスト パフォーマンス課題など	定期テスト パフォーマンス課題 学習の振り返りなど	パフォーマンス課題 学習の振り返りなど

年間学習計画			
学期	学習内容	時数	主な評価方法
1 学 期	現代を生きる自己の課題	6	上記の通り
	人間としての自覚	10	
2 学 期	人間としての自覚	4	
	現代をかたちづくる倫理	14	
	国際社会に生きる日本人としての自覚（近代社会の思想まで）	6	
3 学 期	国際社会に生きる日本人としての自覚（西洋近代精神の摂取から）	5	
	◇現代における諸課題の探究	5	
	※長期課題として◇の範囲を扱う可能性があります		